

## 文明開化～松江・小泉八雲と国際理解

島根県 公立中学校教諭

## 1 中央史としての「文明開化」

## 中学校学習指導要領解説—社会科編—より

「明治維新の経緯のあらましを理解させ、新政府の諸改革により近代国家の基礎が整えられたことに気づかせるとともに、人々の生活の大きな変化について考えさせる。」「諸改革や文明開化がもたらした『人々の生活の大きな変化』については、江戸時代との比較などから考えさせるようにする。」

いわゆる『文明開化』は、1870年代前半より都市部を中心に広まる。教科書に掲載されている明治初期の銀座の錦絵などから、建物・服装・町並み・交通機関の変化と欧化政策への政府の思いを学習することができる。この場合、学習指導要領解説書の説明の箇所にあるように、文明開化を諸改革と同じ範疇としてとらえ、その結果、人々の生活に変化をもたらしたととらえるのが適当であると考える。開国により、西洋の文化に接する機会が増したことは確かであるが、一方で、だからといって西洋文化が浸透したわけではない。そこには、政治的な意識が大きな役割を果たしたことに着目させる必要がある。中央史としての「文明開化」は、明治維新の諸改革のキーワードとしての「近代化」のひとつとして他の諸政策と並列的に扱うようにしたい。

## 2 地域の歴史としての「文明開化」

都市の文明開化が地方の農漁村部に広がるには20年あまりの歳月を要する。地方の小都市では明治10年代から煉瓦造りの公社などが建設され始め、20年代になると近世から近代へと変化を遂げることになる。

松江市の場合、江戸時代松平藩の城下として栄え、現在も山陰の中心的な都市のひとつであり、

表1 明治時代 生活の変化の様子

年	中央	松江
1868	ビスケット製造	
1869	パン製造 アイスクリーム発売	松江で散髪流行 (藩がやめるよう説諭)
1870	人力車営業 自転車使用 こうもり傘流行	外国人技術者招請(砲術・医術)
1871	散髪令・廃刀令 郵便制度開始	
1872	横浜にガス灯 鉄道開通	
1874		本町・天神町に ガス灯
1875	銀座のレンガ街完成	民営蒸気船開業
1876	チョコレート発売	公立松江病院設立

文明開化の影響は、かなり早い段階から見られる。(表1) 1877年(明治10年)の新聞記事には次のような島根県の様子を述べている。

<松江> 師範学校、公立学校があり、裁判所はかりに寺町の善道寺に開かれた。狭いので大混雑し事務も忙しい。公立病院はレンガ造りで立派である。

<浜田> 浜田支庁、警察署、三井銀行支店は旧丸の内に、病院と郵便局は新町にあり、(略) 繁華街には書籍洋物が並んでいる。市内の商人にも髪を結っている者はいない。ただ士族と車夫にはときどきチョンマゲを見かける。

(『島根の歴史ものがたり』p.171)

近代化の象徴としての「鉄道」の敷設は島根県においては遅れるが、鉄道馬車は主要道路で走る。当時の県知事籠手田安定は近代化政策をすすめ松江－広島、浜田－広島間の道路整備や西洋文化の導入に積極的な役割を果たし、松江中学や師範学校に外国人教師を招聘した。明治の文化は、自然と地方に伝播したのではなく、籠手田のような先取的な人物の存在が大きいことを理解させたい。このことは、中央史としての文明開化の学習と同様に歴史意識の存在への気づきとして重要であり、歴史学習が人々の主体的な行為の総体としての認識を深めることにつながると考えている。

籠手田の努力もあって、ラフカディオハーンは松江中学校の英語の教師として松江での生活が始まる。1890年（明治23年）のことである。島根県でも文明開化が本格化し、「松江新聞」「山陰新聞」など発行されるようになった頃である。

### 3 ラフカディオハーン（小泉八雲）と松江

写真1のように、文明開化が進むにつれて、人々の食生活にも洋食が取り入れられるようになったが、なかでも牛乳は明治時代に日本に来た「お雇い外国人」にとっては重要な食物のひとつであった。アメリカ総領事ハリスも1856年に幕府に対し牛乳を要求したという記録がある。福沢諭吉の牛乳奨励もあり明治期前半の起業として農畜政策を勧業し、関東・関西・北海道では、早くから普及する。

表1にもあるように、文明開化の象徴のこうもり傘やガス灯以前にビスケットやパン、アイスクリームなどがつくられたことなどからも牛乳は文



写真1 洋食店の登場  
(帝国書院「中学生の歴史 最新版」p.154)

明開化と大きな関わりがあることがわかる。

このように文明開化や殖産興業を支えた外国人にとって重要である一方、きわめて希少であったと思われる牛乳を小泉八雲は毎朝飲んでいたという記録がある。小泉八雲宅（富田屋）へ牛乳を配達していたのは、明治6年創業の牛乳販売「鴻生舎」(写真2)である。また鴻生舎は松江病院（現在の松江日赤病院）にも販売し、舎屋も病院の近辺にあった。文明開化の中で、新たな商売がなされたことになる。

ラフカディオハーンは明治23年から15か月、松江に滞在し、旧松江藩士の娘「せつ」と結婚し、小泉八雲と名乗り、のちに「知られざる日本の面影」を著し、アメリカにも明治の松江を紹介する。八雲が文明開化に果たした役割は、松江の国際化という点からも重要である。また、東京や横浜、長崎などとは異なり、西洋人や西洋文化にふれる機会が少なかったであろう松江の人々にとって、松江を愛し、日本文化に大きな理解を示した小泉八雲の存在は、西洋との精神的距離をおおいに縮め、真の文明開化へと導いたものと思われる。当時の新聞に八雲について次のように紹介されている。

日本にいる西洋人は、自分の国の習慣を守り、日本のことを野蛮だとか遅れているとか、とかく批判するけれども、今度松江中学に来たヘルン先生（ラフカディオハーン）は、日本のことを誉め、自分も日本の着物を着たり、食べ物を食べたりして、日本人になりきろうとしている…。

## ワークシート

### 松江の文明開化を考えよう

1. 鴻生舎全景の絵をみて気づいたこと

2. 鴻生舎の牛乳はどんな人たちが飲用したか

(絵のタイトルや教師の話などから考える)

鴻生舎 全景

3. 教科書p.154「洋食店の登場」と関連して、この時代に鴻生舎の牛乳は松江にどんな影響をもたらしたか

4. 感想

出典：松江文化情報誌「古都松江」

## 4 授業構想「文明開化」東京・松江

### 課題 1

帝国書院教科書p.154「明治時代の銀座」と、

江戸時代の町並みと比較してみよう

\*レンガ造りの建物\*ガス灯\*こうもり傘など  
→人々の生活が変化していることを知る

<文明開化についての概念化>

### 課題 2

\*銀座の町並みがこのように西洋化した背景について話し合う(教師は火災により都市計画・強制移住・外国人居留地との関係などについて資料等で説明する)

<文明開化と政治関係把握>

### 課題 3

\*松江の変化について資料から確認する

(年表・前掲資料)

<身近な地域の歴史>

(教師は写真等の視覚資料を準備しておくとともに現在一部遺されているものについて説明する)

### 課題 4

\*小泉八雲について知る

(外国人の招聘については殖産興業の学習を想起させる。)

→ワークシートを活用して、松江に早くから起業した鴻生舎の役割について学習し、郷土の先人の果たした役割を考える。

### 課題 5

\*文明開化とは何か、自分なりの考えをまとめる。

→小泉八雲が日本を愛し、松江を愛したように松江の人々もまた小泉八雲を理解し受け取れたことを新聞資料などから読み取る。

政府にとっては近代化の旗印であった文明開化が庶民に受け容れられていく段階においては、大きな意味では国際理解につながることを理解させることが必要である。明治の文明に学びつつ、現代を生きる生徒に、これからの生き方を学ぶことのできる授業としたい。